



森のなかま

2012年 6月号
NO.50 (継続 195)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

平成24年度＊森林づくり活動/体験講座がスタートしました！

「木育て日記」より 河口にて ～山からの届け物

柏倉 紘(4期)

相模川は、山中湖と忍野八海を水源とし、富士山麓の湧水を集めて桂川となり、神奈川県へと入りその名となっている。丹沢の山々に育つ森林を源として多くの命を生み出し、豊かな農業生産や経済交流をも育み、私たちに多くの恵みをもたらしながら、流れを今に繋いでいる。この“神奈川の母なる川”が相模湾にたどりつくまでに、招き入れる大小の流れは15ほどある。

一次支川と言われるその流れたちの中で、大洋に注ぎ込むほんの少し手前、15番目にその胎内に呼び込まれる小河川がある。

「桜前線が弘前に届いた」という4月終わり、流れに沿って菜の花の黄色の絨毯を敷き詰めた両岸は、赤い穂をつけたスイバを横一列に並べたように配して、足下には青や白、赤紫の花を競い合わせるかのようにし、下流へと広がりを見せている。明け方まで降り続いた二日越しの雨は、普段の流れを一変させて川床を飲み込み、濁りに浸された末枯れのヨシの根元では、鯉の群れが銀鱗を光らせぶつかりあって跳ねている。身をくねらせ水しぶきをあげて産卵する姿に命の輝きをみる。

浜に寄せる波はやわらかい。

そよぐ風もなく、波頭を立てることもなく、真綿に水を含ませるように寄せては返している。雲は灰色の絵の具を溶かして流し込んだように行きわたり、海の色さえも倣っている。少しばかりの霞に見えるのは大島であろうか。その中にあって、水平線を知らせるかのように乗合船が二つ色を変えている。



照葉樹林の高麗山

転じれば、高麗山は照葉樹林で覆われて色濃く迫り、西方へ湘南平、大磯丘陵と稜線を引いている。後方には、ひとときわ高く大山や丹沢の山並みが青磁色の山容を見せ、長旅を終えて湾に注ぎ込む相模の本流を見守っているかのような。その流れの際を少年が二人しぶきをあげて走っている。屈託のない笑顔を見やり、膝をつき置き去りにされたような漂着物に目を凝らす。

直径1cm程の球果を見つける。時の流れを塗り込んだように黒ずんだヒノキの球果を、たなごころに乗せて転がし、心は山に飛ぶ。ふるさとの山は、枝先の一つ一つに若い緑を思い思いにつけ、笑っているにちがいない。

大鎌をふるう日は近い。今年も木々たちに足音を届けよう。

写真：村井正孝（広報部）

箱根ジオパーク構想の現状

佐藤昭男<8期>

ジオパークとは、簡単にお話すると地球活動の遺産（自然・文化）を主な見所とする自然の中の公園のことです。地形や地層、その土地の動植物やその恵みを受けて生活する人々の暮らしや歴史などがジオパークとなります。ユネスコの支援により 2004 年に設立された、「世界ジオパークネットワーク」を中心に世界各国で推進されています。ジオパークネットワークに参加するためにはガイドラインに沿った基準で審査を受けて登録されてからとなります。

さて、箱根ジオパーク構想をご存知でしょうか？ 概略を説明しますと、構想は箱根火山及びその周辺地域（小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町）の地質資源を、日本ジオパークネットワークに 2012 年度の登録を目指して、2011 年度に設立された推進協議会によって推進されています。箱根ジオパーク推進協議会は小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町、県西地域県政総合センター、神奈川県立生命の星・地球博物館、神奈川県温泉地学研究所を中心に、そのほか観光協会、商工会、教育委員会、地元企業や NPO などの団体で運営され、幹事会、広報・教育部会、観光部会、地域振興部会の分野ごとに各種の活動が取り組まれています。

箱根ジオパークは次に挙げる内容の背景があることから、テーマを「北と南をつなぐ自然のみち 東と西をつなぐ歴史のみち」を掲げて、日本ジオパークネットワークに立候補し、先般(4/20)、審査機関である日本ジオパーク委員会（JGC）へ箱根ジオパークの認定申請書が提出されました。

- (1) 伊豆・小笠原孤に衝突するプレート境界にあり、複雑な形成史を有する世界的にも有名な箱根火山が存在する
- (2) 箱根火山はさまざまな種類の溶岩や火山灰を噴出し、それらが特徴的な火山地形をつくりだし、「火山の博物館」となっている
- (3) 相模湾の海岸から箱根火山の最高峰まで、約 1,400m の高低差がある起伏に富んだ大地は、固有種を含む多様な生物が生息する豊かな自然を有する
- (4) 火山の恵みである豊富な湯量と多様な泉質を誇る由緒ある温泉地域である
- (5) 変化に富んだ地形や豊富な地質資源が、古くから地域文化・産業を支えてきた地域である
- (6) 神奈川県立生命の星・地球博物館と温泉地学研究所という教育・研究施設が設置されている。また、平成 26 年には新たに箱根町が箱根火山学習センター（仮称）を開設するべく準備を進めており、気軽に火山の学習ができる場としてジオパークのさらに拠点を充実する状況にある
- (7) 首都圏内にあり、公共交通手段が充実している

これより委員会による審査が始まることになります。今後のスケジュールとしては、まず、5 月 20 日に公開プレゼンテーションが千葉県の幕張メッセで行われ、申請書と合わせて採点が行われます。その後、6～8 月頃に 1 泊 2 日程度で、審査員がこの地域に足を運び、状況を見る現地審査が行われます。審査の結果は、9～10 月頃に発表され、認定を受ければ『箱根ジオパーク』となる予定です。



長尾峠・見晴亭から中央火口丘や芦ノ湖を見る

ところが、現状ではジオパークの活動は、行政主導になっているので、今後、推進協議会の参加団体や地域住民がジオパーク活動の中心となるような体制の整備が求められます。今回の報告は生命の星・地球博物館友の会の事業として推進協議会に小生が参加し、知り得た情報を提供しました。

インストラクターの皆様となかなか一緒に活動することができませんが、小生は箱根の「山小屋佐藤」で箱根の自然や歴史等の普及活動を通して、箱根ジオパークを実践しているつもりです。

皆様にも箱根ジオパークの趣旨をご理解いただき、ご協力いただけることを望みます。

写真提供：佐藤昭男 様

箱根ジオパークの(案) イノシシ君

神奈川県チーフ森林インストラクター 飯村 武

神奈川県、いや首都の奥座敷と言われる箱根は「天下の嶮」で知られ、わが国屈指の温泉を擁し、風光明媚の故に富士、伊豆等と一緒に「富士・箱根・伊豆国立公園」に指定されている。県内の動物相から見て、箱根は隣の丹沢について豊かさを維持し、大型獣としてはイノシシが生息し、最近ではシカもその姿をちらつかせるようになった。

さて、肝心のイノシシ、その行動は神出鬼没、変化自在なところがあって生活様式はまだ十分には捉えられていない。ゲリラ戦法で農作物を荒しまくる、そんな行動ばかりが目につくので「悪態の限り」の烙印は一向に消えそうにない。それはともかく、箱根の場合の悪態は一寸風変わりである。第1にゴルフ場、ついで庭園、そして鉄道、この3つが彼らによって脅かされているのだ。早速、その実態を検分することとする。

▲箱根内輪山の仙石原には数コースのゴルフ場がある。春秋の候ともなるとゴルフ場にイノシシが現れ、口吻や牙で辺り構わず土を掘り返す。当然、プレーに影響すること甚大である。この動物は植物も動物も摂る雑食性である。掘り返すのは、芝生の土中で繁殖するコガネムシの幼虫やミミズなどを捕食するためである。



仙石原のイノシシ群の生息拠点は金時山の南斜面だが、季節到来ともなると、きまって丸岳、長尾峠を経て湖尻に配置されているゴルフ場付近に季節移動をすることのようだ。

▲箱根は前述の土地柄からして、植物的自然の中にホテル、旅館、別荘などが点在し、それらの前庭は大抵手入れの行き届いた植え込み、高価なことは申すまでもない。

問題は4～5月ともなるとこれらの庭園にイノシシが現れ、植木の根元を掘り返し、著しい時には植木を根掘りにしてしまう。その理由は前述同様、土壤動物を捕食するためである。かくて被害木を放置すれば枯死することは必然。

特に別荘の住人は漸界の名士が多いから、鳥獣害対策所管の行政当局はうかうかしてはいられない、と言う訳だ。

▲小田原から強羅まで箱根登山鉄道が往来している。この鉄道の創設は1888（明治21年）年であるから120年余の歴史をもつ。鉄道は千仞を形成する早川に沿って敷設され、途中何度かのスイッチバックを繰り返しながら、のろのろと往来している。

5月ごろ、この鉄道の塔ノ沢出合から宮ノ下の、約2, 5kmの範囲にイノシシが現れ活動する。活動が惹起する問題は2つに大別される。その一つは鉄道の道床が直接掘り返されること、もう一つは鉄道の山側斜面にある石の下部が掘られ、そのために石が鉄道まで転がり落ちることである。無論、掘るのは石の下にいる動物類を捕食するためだ。いずれにしても剣呑な事象なので、鉄道の保安当局はその予防策として線路の山側斜面に転石防止柵の設置に努めているし、ときには法律に基づき有害獣駆除も実施しているようだ。

ところで、箱根は火山である。そんな土地柄の故に、いま日本ジオパークによる認定を目指している。その名は「箱根ジオパーク」。ジオパークとは地質学と公園を組み合わせた造語で、地球活動の遺産を主な見所とする自然の中の公園のことである。火山や温泉など特色のある地形への理解を深め、地域の魅力を一層高めていこうというものだ（県のたより・2012年4月号）。それはそれで結構なことだ。しかし、先述のとおりイノシシという動物は人間が余計なことをすると敏感に反応し、反撃に出るものだ。希望適って認定されたら、運営に当たってはこの「反撃」を茶化することなく、素直に受け止めて対処し、進めることを望んでおきたい。

写真提供：飯村 武 様

私の認識

野鳥その99

高橋恒通

今月から水辺の野鳥、即ち水鳥について暫らくのあいだご案内させていただきます。

最初は多くの方に馴染み深いカモ類から入りましょう。その1番目はガンカモ目ガンカモ科の留鳥、そして北海道では夏鳥であるカルガモ（漢和名：軽鴨、英名：Spotbill Duck, 体長L=16cm）についてであります。

体色は♂♀同色、頭部から背面全体が黒褐色で覆われていると思ってください。勿論、個体差はありますが、よく観ると覚え易い特徴が幾つかあります。その第一は嘴の色で基部が黒色、先端が黄色で目立つポイントです。

第二は黒色の過眠線を中心に淡褐白色の眉斑と頬の線、第三が赤橙色の足、そして第四はカモ類に特有の“翼鏡（ヨクキョウ）”と呼ばれる金属光沢の菱形が、次列風切羽の一部にあり、カルガモのそれは青色ですが、光線の加減で紫色にも見えます。この四点を覚えて下さい。



カルガモの棲息環境は、河川、水田地帯、池、湖沼、港、沿岸海域と水辺なら何処でもOKと言う広域環境適応性のある野鳥だと私は認識しております。

次に採食行動を中心とした行動様式は、水辺の草の実や種子を啄んだり水草や藻も食べます。また日中は休息し夜間に採食など活動するのが通常なのですが、近年は棲息数が少し増えて来た為か市街地の川や公園の池などでは日中でも採食する姿が目撃されています。

繁殖、営巣は水辺の草地に枯葉や枯草を皿状にした巣を作り、産座には自分の腹部の羽毛を抜いて敷き、そこで産卵、抱卵、育雛をします。これらは全て雌が行います。

従ってこのところ毎年の様にテレビや新聞の写真などで報道される微笑ましい場面、即ち母鳥が十羽を超える雛を従えて行進する姿で一般の人にも馴染みの場面が広く知れ亘っております。

♂♀の判別がつかなくても雛の行列の先頭の成鳥は100%が♀なので覚えていて下さい。

ベテランのバーダーの中に「♂♀判別は出来るヨ」と仰る方も居りますが、一般の方は雛を引率している成鳥と、交尾の時に下に竦（スク）んでいるのが♀だと認識すべきだと思います。

カルガモは水辺の探鳥会では必ず観察できて、“皆勤賞”を与えられる愛すべき野鳥ですが、探鳥会に参加するベテランのリピーターの中には「何だカルガモか・・・」等と呟いて興味を示さない人も時折居りますが、その時に私は「母鳥に連れられて行進する十羽を超える雛の殆んどが、カラスや野良猫等に食べられて成鳥になるのは1～2羽位なのですヨ、だから今そこに居る成鳥は運が良かった個体なので好運に肖（あやか）る」と思って観察して下さい。」と言うことにしています。

カルガモの鳴き声は「ゲエゲエゲエー」とスローテンポで発声するので我々の耳には心地良くは聞こえませんが、水草を啄んだり、頭を掻いたり、杭の上で頭を翼の中に突っ込んで寝たり、瞬（マバタキ）の折に“瞬膜（シュンマク）”と言う白色の膜が下から上へ移ったりと良く観れば興味の湧く野鳥ですし、地味な体色にも造化の神の一筆が加えられたと思われる

“翼鏡”の美しい金属光沢に感動を覚える場面も多々ある野鳥だと私は認識しております。

ご愛読の同志の方々も是非ともカルガモを観察する時には、上記の如き諸点を意識して戴ければ幸甚であります。



<参考資料>

- ◎日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉 解説（鳴き声）/上田秀雄、山と溪谷社
- ◎とり、（自然ガイド）、浜口哲一・文、佐野裕彦・絵、文一総合出版
- ◎**新**水辺の鳥、野鳥観察ハンディ図鑑、解説：安西英明、絵：谷口高司、（財）日本野鳥の会
- ◎写真・カルガモ♂♀？ 村井正孝（広報部）
- ◎イラスト・カルガモ親子 大塚晴子（広報部）

スミレ観察会

九鬼山

2012. 4. 21

内野 ミドリ(9期)



参加者；L足立④、SL武者⑦、SL内野⑨
堀江④、高崎④、佐藤⑤、飯澤⑨、松山⑩、
大塚⑪、赤崎⑫、下山⑫、永松⑫、 12名

天気予報はスミレの観察日和の曇り、JR八王子駅中央線下りホームに集合。リーダーの足立さんからスミレの観察資料配布と班分けをしていただく。大月駅から登山口までのタクシーも班ごとに乗るようにとの指示がある。

大月駅からタクシーに乗り7～8分で九鬼山杉山新道コース登山口があるレンガ造りの用水橋・落合水路橋に到着。のどかな山村風景が広がりこれからの観察会に期待が高まる。新しい仲間が多かったので自己紹介をしてから班ごとにスタート。

すぐにタチツボスミレ①、ノジスミレ②、(ケ)マルバスミレ③と、どこかで見た記憶がある植物(気になって帰って調べたらアズマイチゲの開ききらない葉と蕾だった)を見つけた。土手に野の花が咲き競う中、見慣れない

タンポポ(エゾタンポポ)が目を引く。スギやヒノキの人工林の中を進むとタチツボスミレやシュンランが多い。エイザンスミレ④、ヒナスミレ⑤、アカネスミレ⑥、など続々と登場する。メインはスミレだがダンコウバイ、クロモジ、マメザクラ、ウグイスカグラなど頭上も華やかだ。イカリソウ、ジュウニヒトエなどが咲く中を、足早に進む班、ゆっくり観察する班、付かず離れずの班と三様だが、新しいスミレに出会い同定するときには合同で意見を出し合う。同定には細かな観察が必要で、全形(茎)、托葉の形、葉の形、葉の裏、花の色、花の形、距、側弁の毛の有無、花柱の先の形、等など。採取せずに細かな所を調べるのに正攻法ではないかもしれないがデジカメを利用した。花の写真を拡大して側弁の毛や花柱の先の形が確認できる。持参した「日本のスミレ」いがりまさし著の記述に頼ることが多かったが、そうしてアケボノスミレ⑦、シハイスミレ⑧、を同定した。シハイスミレは近くに数株あり、最初決め手に欠いた葉の裏の紫色も確認できて皆納得。登山道にオトメスミレ⑨が見事に咲いていた。葉に斑が入ったスミレ2種、フイリヒナスミレ⑩、とフイリシハイスミレ⑪、も花柱の先の形で同定した。山頂近くで本日のお目当て、エゾアオイスミレ⑫を見つけて心が躍る。

山頂で弁当を広げて大休憩。晴れていれば眺めの良い場所だが生憎遠くの山々は見られない。出発前に集合写真を撮る。下山は札金沢コースで少しの間急なガレ場を足元に注意しながら下る。途中開けたところにセンボンヤリの群生。それも高さ2～3cmの小さな株に花が咲いている。秋のセンボンヤリからは想像ができない可愛いらしさだ。さらに落葉樹林を進むとヒトリシズカが数株ずつまとまって咲きはじめていて歓声が上がる。やっとナガバノスミレサイシン⑬と出会う。倒木の根元にエンレイソウがひっそりと一株。シロバナナガバノスミレサイシン⑭が咲いている。いよいよ集落近くまで下りてきて、オカスミレ⑮に出会えた。天気も崩れることもなくスミレ観察は無事終了。帰りの電車の時間を気にしながら足早に富士急田野倉駅へ向かった。

観察できたスミレは民家近くで見た外来種を除いて15種類(①～⑮)、スミレは種類によって好む場所が違う上、花の咲く時期も違うのに沢山のスミレと出会うことができとても満足だった。

企画してくださった堀江さん、足立さんに感謝。

活動短信

4/16～5/19

園児に森の動物紹介

日 4月16日(月) 9時45分～10時20分
 場 川崎市高津区 このはな保育園
 参 4歳児～5歳児 16名(男の子7名・女の子9名)
 先生3名

イ L足立④、加藤久⑫、
 紙芝居形式による「もりとどうぶつ」のタイトル
 のもとに「むささび(里山動物の代表の中から選定)
 と「しか(デモ用の木鹿に乗ってもらうために選定)」
 の話をしました。事前打ち合わせの際に、園児が退屈
 しない時間、30分を目安に企画を構成し、対話形式と
 し一方的にしゃべらないことも前提としました。また、
 紙芝居に入る前にはアイスブレイクを採用し、白旗、
 赤旗上げ下げを行いインストラクターと園児の一体感
 作りに配慮しました。絵コンテの概要は「むささび」
 の滑空、前足と指(さい、らくだ、鹿との比較)、葉っ
 ぱ等の食べ方他を中心に説明をしました。「しか」につ
 いては、雄と雌との違い、樹木の幹や葉の食べたその
 後と糞、足の説明をしました。話の後に、持参した
 むささびの紙グライダー飛ばしと木鹿乗せのアトラク
 ションを行い。楽しかったと喜んでもらいました。
 (普及啓発部会・学活チーム 記 12期 加藤久)

パートナー林保全活動(間伐)

日 4月21日(土) 10時～12時 曇り
 場 やどりき水源林 キリンビールパートナー林
 参 キリンビール横浜工場 社員 53名
 県 自環保・水源の森林推進課 内田様
 イ L山崎⑦、井出①、渡辺③、宮本④、加藤⑥、
 鈴木⑧、小沢⑨、大澤⑩、一重⑪、澤村⑫、
 オリエンテーションでリーダーの山崎さんから
 浮石に乗らないように、雨の後で道が滑りやすいので
 要注意、そして枯れ木には触れないようにとの注意を
 受けストレッチを行い現場へ。
 1班6～7名、インストラクター1名、9班体制で行う。
 対象木はスギ、樹高12～13m、胸高直径15～20cm、
 間伐の意味や作業上の安全を確認して作業開始。
 地形上、上下作業、近接作業となり安全確保のため
 正確な受け口追い口作り、ツルを残すこと。伐倒時は
 周囲への合図、ロープを使用して作業を進める。

今回はスギなので前回ヒノキの経験者はその柔らか
 さに関心を示す。追い口がヒノキの場合より厚い状態
 でも動き始めるので要注意であった。
 鋸の扱いに苦戦する人もいたが無事作業は終了。
 後日、木工でコースター作りなどに使う材を各班1本
 搬出。オリエンテーションの時は小雨模様であったが
 現場に着く頃には上がり、ヒヤリハットもなく一日の
 活動を無事終える事ができた。*TVKの取材が入る。
 (記 12期 澤村)

H24年度 緑のレンジャー・シニア第1回

日 4月28日(土) 9時40分～12時 晴れ
 場 鎌倉市中央公園管理棟2F研修室及び園内
 参 10名(申し込み:12名)
 イ 島岡③、
 ・講義依頼テーマ:「自然のしくみ」緑を中心とした
 自然のしくみや役割について
 ・講義内容:里山とは?自然は生物界のバランスで
 成立、森林の形成、植物の防御機能、生物の多様
 性と構成要素、緑(森林)のはたらき他、
 園内植物観察
 ・受講者:12名受付、10名参加(男性8名、女性2
 名)
 ・受講者自己紹介:7名は定年退職者と思われる。
 3名は現役の様子 緑のボランティアなど経験者
 は、植木作業手伝い中1名以外、なし
 ・感想:皆さん関心を持って、熱心に聞いてくれた。
 (記 3期 島岡)

高校生による奉仕活動(植樹)

日 5月2日(水) 12時半～14時半 小雨のち大雨
 場 宮ヶ瀬ダムサイト・鳥居原園地
 参 大雨により直前中止 都立小川高校 316名
 主催 宮ヶ瀬ダム周辺振興財団 柳川様他5名
 イ L松本⑪、釘宮⑥、内野⑨、鳥飼⑪、
 東京都は学校教育方針として社会奉仕活動を行
 なっているそうです。これほどの大人数で作業す
 る場所が都にはないので、町田市から近く条件の
 よい宮ヶ瀬ダムサイトが選ばれたようです。認識
 不足でしたが昨今は今回のような企画は運営会社
 に一任しているそうです。天気は前日から雨天の
 懸念があったのですが、敢行することにしたのは
 どうもそのような事情があったのでしょうか。直前
 まで粘り、生徒を乗せたバスも近くまできていま
 したが、結局、雨は本降りになり高校生による植
 樹は断念との連絡がありました。苗を放置できな
 いので振興財団員6名と我々インストラクター4
 名の計10名で150本のドウダンツツジを植える
 ことになりました。樹木の搬送(一輪車)、穴掘
 り、植え付けまでを泥まみれで行ないました。イン
 ストラクターはこのような事態も予測していた
 ので服装の準備はしていました。“泥だらけの純情
 ハート”のインストラクターの皆さまホントに御
 苦労様でした。その後、大雨注意報が発令される
 天気となったのでした。(記 11期 松本)

山菜探しとノビルの餃子づくり

日 5月12日(土) 8時半～15時 曇り
 場 小田原いこいの森
 参 小田原市の広報で応募 大人12名・子供10名
 スタッフ 小田原市森林組合 佐藤様他3名
 イ L村井⑨、飯澤⑨、小沢⑨、大塚⑪、
 小田原いこいの森のイベントは食と森林保全や自
 然観察を行っていて好評なので、昨年から新企画と
 して話をすすめていたのが実った。
 4班に分かれていこいの森の自然観察をしながら、
 食べられる山菜野草を摘み、毒草を教える。

昼食は参加者が大事に摘み草した山菜野草を仕分けし、その名と料理方法を説明し、全員で調理に移る。ノビル（この森には少ししかなく他で調達）はスタッフが事前にミジン切りにし、隠し味+ひき肉を混ぜ親子で賑やかに餃子づくりを開始した。

天麩羅＝ハリギリ、アザミの新芽、ウバユリの球根、ヤブカラシの新芽、ドクダミ、サンショウ、タラの芽、ユキノシタ、ハナйкаダ、お浸し＝ミツバ、モミジガサ（シドケ）時間が押し迫り、ウド（下見時に他で採取）の葉や茎はお土産に・・・昼食後雲行きがおかしいのでひとまず解散。なお摘み草希望者が大勢いて、クヌギの広場付近でフキ、ミツバ、ウバユリの球根を取り家路につかれた。

参加者のアンケートを拝見。皆さん“楽しかった”主催者の佐藤様からは先日はありがとうございました。皆様のおかげで、初企画も大成功に終わりました。山菜もたくさん取れましたし、料理もとてもおいしくいただきました。また、ノビルやウドなど事前準備もしていただき、大変助かりました。

当日いろいろと気付いたこと、改善すべき点を感じましたので、来年のイベントの際によりよい方法を取りたいと思います。今後ともよろしく願います。＜継続イベントになり満足でした。＞

（記 9期 村井）

森林探訪 第71回 風薫る 「大楠山」

日 5月13日（日）晴れ

場 三浦半島 大楠山

参 79名（男性32名、女性47名）

公財 河野様

イ L小笠原⑩、友谷①、安部⑤、野田⑧、女川⑨、海野⑩、小林⑩、杉崎⑩、福原⑩、上野⑪、上宮田⑪、鳥飼⑪、松永⑪、永松⑫、

五月晴れのもと2歳から85歳までの老若男女が元気よく京急安針塚駅に集合され出発しました。今回は今までと違い 一般生活道路の距離が1時間近くあるので当初は照り返し等が心配になったが、立ち止まるとちょっと肌寒いくらいで絶好の探訪日和でした。

9班に分かれ、三浦安針の供養塔のある県立塚山公園へ向かう。日本に初めてきたイギリス人の安針の功績を改めて知った。その後は葉山の奥座敷の木古庭（きこば）で里山の景色を楽しみながら大楠山へ。木々の緑の色違い、水の音、心地よい風などを身体で感じながら山頂を目指す。ほぼ予定時刻に各班とも山頂につき昼食タイムとなった。天候に恵まれたせいか他のハイカーもとても多かった。

下山ルートでは大楠山の雑木林のもつ2面性をインストラクターの説明等で学びつつ相模湾に向って森林浴を楽しみながらゆっくり足を進めた。

下山後の参加者の顔はどなたもとても生き生きしておられた。（記 10期 小笠原）

パートナー林保全活動（間伐）

日 5月19日（土）9時半～14時 晴れ

場 世附富士通FIPの森

参 29名（申込者 31名）

県 自環保・水源の森林推進課 金子様

イ L加藤⑥、川又⑥、武川⑥、須長⑥、大道⑥、戸谷⑥、杉戸⑥、武本⑦、

真っ青な空が丹沢湖に映り絶好の天気となる。

川崎からのバスが東名の事故で約1時間遅れ10時半に現場到着し開会式を行い看板をバックに記念撮影。その後 自然観察グループは路線バスチャーターで西丹沢自然教室へ向かい目的地のゴーラ沢出合いに向かうが坂もあり途中にて引き返すがみずみずしい新緑の中充分森林浴を楽しんだようだ。

間伐班は16名の参加者を4グループに分けた。柔軟体操をたっぷり行い、注意事項を説明。昨年の台風被害の後処理がきっちりされていたので作業環境としては最高と思う。比較的平坦もおおいため 寄とは大違い。お互いの間隔もたっぷり取れて安全に作業に臨めたのはよかった。

スギ、ヒノキ両方が植栽されていたので 出来るだけ両方を間伐してもらうようにして鋸との相性など実感できたのでないかと思う。

各班2～4本を処理して1時前には下山して 道具の手入れを行い 丹沢森の仲間たちの世附フィールドまで歩いてむかう。孟宗竹を半割りしての竹食器をつくり 特製カレー、フルーツでの昼食となる。最後にプロの林業家でもある川又氏による神奈川の森林と林業というテーマでミニレクチャーをしていたいただきお開きとした。（記 6期 加藤）

第25回神奈川トヨタプリウス森木会

日 5月12日（土）13日（日）

場 やどりき水源林

参 5/12 12組27名 スタッフ 14名

5/13 14組36名 スタッフ 14名

県 自環保 水源の森林推進課

5/12 内田様、武田様

5/13 西口課長様、後藤様

イ 5/12 L森本⑤、足立④、相馬⑤、伊藤⑦、中島⑨、角田⑩、5/13 L森本⑤、足立④、宮本④、相馬⑤、伊藤⑦、山崎⑦、

参加者累計1500名を誇る恒例のイベント。今回は、「緑のダム補修工事」と銘打った土留め用の柵づくり、自然観察とクラフトの3種類を実施。整備体験は、間伐材の横木を、杭と番線で固定する本格的な「丸太筋工」というもの。また、クラフトでは、シュロバツタを本格展開した。

丸太筋工は会として新規の取り組みで、新規メニューの開発に繋がった。神奈川トヨタさんに感謝したい。（募金協力＝19537円）

（記 5期 森本）

丸太筋工



写真提供：伊藤恭造様

やどりき水源林 ミニガイド

5月のトピックス

やどりき水源林が賑やかになってきました。森林部会の研修や植物班の調査、水生土壌班活動がスタート!!

6月の水源林



管理棟前のウリノ木の花が見ごろ

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度(12月1月2月休止)

●集合：水源林入口ゲート前

●内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(公財) かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255

fax:045-412-2300

携帯：090-8580-5348

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内



明日、
世界が滅びるとしても
今日、
二人は木を植える。

今、わたしたちは、浅川巧の歩いた道の、その先を歩いているだろうか。

森林インストラクター必見の映画

6/9全国ロードショー

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。＜広報全般についてのお問い合わせ＞

小沢章男まで

Mail:a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp

Tel:0467-52-2191

＜電子配信担当＞ 森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784

Mail:shinrin_inst.denshihaishin@gmail.com

＜電子メール・手書き原稿送り先＞

【本誌】松本 保

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸3-46-17

(Tel 連絡時は携帯 090-7962-3168)

Fax: 045-301-9401

Mail: matsutamo@jcom.home.ne.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871

小田原市下堀123

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mai: minagold109@plum.plala.or.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町3-7

Tel/Fax: 046-825-9281

Mail:2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

原稿は随時受け付けています。

編集後記

★7月号より本誌を担当します。編集はあまり気にしていませんが、ネタ集めが少々苦手です。森林インストラクターの皆さまは世人に比べたら色んな知識情報を持っています。是非ともこのキレの良い記事、ネタの提供をお願いします。(11期 松本)

★自宅前の駐車場では、金冠リングが瞬間的に見えて、後はかくれんぼ。だいたい前に、大手カメラ店で、カメラ用専用フィルターは売り切れ。いろいろ黒色系統の物を探して工夫したが、すべて駄目、そこで、一般用の金冠用メガネに合わせる事を思いつき試した。大変難しかった。なにしろ、横長方形の狭い枠の中、しかも、雲の間から瞬間だけみえるので、手持ちで、感を頼りに、丸いレンズを望遠にしながら一般用の長方形の狭い枠にドンぴしゃりにブレをしないで、メガネを合わせるのがこれまた大変でした。部分金冠ですが、でも、これだけとれました。

(鈴木松)



★皆様、長い間お世話になりました。意欲的な方々にボタンタッチ出来て良かったです。(村井)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

事務局：竹島 明

広報部：小沢章男

水口俊則、森 義徳、真貝 勝、

鈴木 朗、鈴木松弘、大塚晴子、

徳岡達郎、松本 保、加藤暖子、

赤崎さほり、影の仕掛け人、



健康の湯*石造り展望風呂

入浴料 500円

火曜～日曜*AM10時～PM

4時まで*新松田駅から15分

松田町健康福祉センター3階

山麓のオアシス
松田の*健康の湯で汗を流して
***リラックスして
お気軽にお立ち寄り
ください
～お食事処～

こ ま ち
—小田急線 新松田駅踏切際—